

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	福原 英二
論文担当者	主 査 新村 健
	副 査 坂口 太一
	副 査 吉村 紳一
学位論文名	Predictors for reduced flow velocity in left atrial appendage
	during sinus rhythm in patients with atrial fibrillation
	(心房細動患者における洞調律時の左心耳血流速度の予測について)
	て)
論文審査の結果の要旨	
心房細動(AF)患者ではカテーテルアブレーション術(CA)により洞調律(SR)に復帰後も、非 AF 患者と比べ脳卒中や一過性脳虚血発作のリスクが高い。これは一部の AF 患者では SR に復帰後も、左心耳血流速度(LAAFV)が低下し、その結果、左心耳に血栓を形成しやすいと推測されている。よって LAAFV 低下を評価することは抗凝固療法継続を判断する上で有用と考えられるが、その測定には経食道心エコー(TEE)が必要であり、頻繁に実施することは難しい。そこで本研究では AF 患者における SR 時の LAAFV 低下を予想する因子を明らかにすることを目的とした。 本研究は 2012 年 11 月から 2018 年 3 月までに当院で AF に対する CA 前に TEE を行った AF 患者 930 名を対象とした単施設後ろ向き研究である。最終的に TEE 時に AF 調律、心臓手術の既往、血液透析中、心臓植え込みデバイス、中等度以上の弁膜疾患、LAAFV 未測定症例は除外し、392 例を解析対象とした。血液検査は CA 当日に、経胸壁心エコーは CA 施行 1 ヶ月以内に、TEE による LAAFV 測定は CA 施行 3 日前以内に SR 時に実施した。LAAFV<35cm/s の LAAFV 低下群と正常群との 2 群に分類し、LAAFV 低下を予測する因子を多変量解析で検討した。 LAAFV 低下群は 72 名(18%)で、非発作性 AF、脳性ナトリウム利尿ペプチド(BNP)上昇、心不全既往、CHADS₂スコア・CHA₂DS₂-VASc スコア高値、β遮断薬服用率、左房容積指数(LAVI)上昇、E/e'上昇、左室駆出率低下、左室肥大合併が正常群との間に有意差を認めた。多変量解析では、BNP(P=0.0005、OR 1.045、95%CI:1.018-1.073)および LAVI(P=0.0045、OR 1.044、95%CI:1.013-1.077)が LAAFV 低下と関連することが明らかにされた。 以上の結果から、BNP 高値と LAVI 上昇は AF 患者における LAAFV 低下予測に有用であることが明らかにされた。本研究は、AF 患者における CA 後の抗凝固療法継続の適否に関する新たな臨床指標を明らかにした点で意義があり、学位に値する研究と評価された。	